

平成30年度第2回豊川市退院調整担当者会 次第

日時 平成30年8月23日（木）
午後1時30分～午後2時30分
場所 豊川市民病院 講堂

議題

1. 協議事項

- (1) 医療・介護合同事例検討会（6/21）の振り返りと今後の課題

- (2) 今年度の医療・介護合同研修会の情報共有
各研修会のグループメンバーから進捗状況の報告を受けと意見交換

- (3) 年間の全研修会開催日程の調整と決定

- (4) 今年度の退院調整担当者会の年間目標との整合性
全体を通しての意見交換

2. その他

- (1) 平成30年度第1回豊川市地域医療連携協議会開催について

- (2) 豊川市民病院地域連携センターから
入院時情報提供書の取り扱いについて

日時 平成30年8月23日(木)
午後1時30分～午後2時30分
場所 豊川市民病院 講堂

出席者：委員2名(高橋委員・藤井委員)欠席。1名代理出席

※ 今回から司会進行は、退院調整担当者会会長の倉田委員が行う。

1. 協議事項

(1) 医療・介護合同事例検討会(6/21開催)の振り返りと今後の課題

倉田委員：医療・介護合同事例検討会の議事録まとめとアンケート集計をした岩間委員から報告をする。

岩間委員：今回テーマは「医療と介護の情報共有・連携の在り方を考える」であった。多くの皆さんの関心を頂き、147名の参加を頂いた。感謝する。

3年前に市民病院と介護の入退院時連携フロー図が作成されているが、このフロー図を一つの材料にして話し合いを進めていくと、参加者の意見を絞りやすくなったのではないかと振り返る。当初は、ケアマネジャーが病院の敷居が高いと感じ、病院職員と気軽に情報交換ができないとの意見から、ケアマネジャーが利用者の入院中に病院に訪問してもいいと分かってもらう為に、連携フロー図を作成した。そのためにフロー図は分かりやすく簡単に作成されている。しかし、連携が進んだ現在、そのフロー図にはない、どのタイミングで何の目的でどのような情報共有や意見交換をすればいいかが問われるようになった。今後、この連携フロー図を見直し、具体的な内容を伴うルールや仕組みを盛り込んでいくことの必要性がわかった。

(2) 年間の各研修会グループからの進捗状況の報告と意見交換

倉田委員：今年度の研修が残り4項目ある。それぞれグループ毎に話し合い、準備を進めて頂いている。全員で共有する為に、各担当役員から進捗情報を報告してもらいたい。

佐藤委員：「呼吸器装着中の在宅療養者への支援の実際を学ぶ」の研修担当をしている。

グループ会議録は、電子@連絡帳に添付している。詳細は資料を参照。

テーマ「呼吸器装着中の在宅療養患者を在宅と病院で一緒に支えよう！」

開催日程：10月24日

病院と在宅支援者及び家族が相互理解でき、家族の理解度にあわせて、在宅で補うことができるよう、パンフレットを活用して、指導や評価の指標にしていくことが目的となる。

研修では、実際にデモンストレーションを行いながら、指導や評価の仕方を学べるようにしたい。自由な意見交換ができるようにしていく。研修会の案内は、9月初旬に岩間委員が担当して作成する。

内藤委員：「在宅における看取り」の研修担当をしている。

グループ会議録は、電子@連絡帳に添付している。詳細は資料を参照。

テーマ『「看取られること・看取ること」の意味すること、それぞれの立場で私たちはどう関わるのか?!』

開催日程：11月22日

研修はシンポジウムの形式とし、患者・家族の立場から看取りを体験した平野委員と、在宅で多くの看取りへの支援をしている新城委員から、また、病院職員として看取りに関わっている倉本委員の三人がシンポジストになり、それぞれの立場から看取られることと看取ることの意味することについて感じている思いを伝える。フロアとの意見交換も予定している。

倉田委員：「介護関係者が病院と連携するしくみ」の研修担当をしている。

グループ会議録は、電子@連絡帳に添付している。詳細は資料を参照。

テーマは決定していない。急性期、回復期、療養型病院から、それぞれ担当者がメンバーとなっているので、二回に分けて集まった。

開催日程：12月初旬を予定している。

回復期病院は三病院が情報共有を行ったところ、大きな違いはないことが分かったので、回復期病院として、共通の入退院時連携フロー図を作成する予定である。急性期病院は市民病院における連携フロー図を見直し、総合青山病院を含めた急性期病院の連携フロー図とする。作成したフロー図を公表し、説明を行う。

また、本日配付した資料にあるように、入院前にケアマネジャーがいる場合とない場合の病院との連携ルールをまとめており、完成をさせて公表をしていく。

病院の役割がみえることで、介護関係者が連携しやすくなり、結果患者及び利用者の安心につながるようにしていく。

岩間委員：「外来から始まる退院支援」の研修担当をしている。

開催日程は来年の1～3月、外部講師に講演を依頼しており、講師には了解が得られている。時間が短いため、内容を広げてしまうとまとまりがなくなるので、今回は入院予定者を対象に、早期から計画的な退院支援・調整を行う仕組み作りについて、焦点を絞ってお話いただくのが良いかと考えている。

—各担当役員からの進捗状況の説明に対して、意見はなかった。—

(3) 年間の全研修会開催日程の調整と決定

参考資料として、「平成30年度退院調整担当者会主催研修計画」を配付した。

研修会開催日程は10月から毎月となるが、日程は重ならないことから、調整は不要である。

(4) 今年度の退院調整担当者会の年間目標との整合性確認

新城委員：今年度、グループに分かれて研修会を計画、開催する流れになっている。「外来から始まる退院調整」「入退院時の連携」「在宅の看取り」など、皆が取り組んでいるのは良いことだと思う。しかし、研修会を行って仕組みやルールが決められていくことは、分散的なものに終わらせず、一つの大きな流れを作り、分かりやすいものにしていくと良いのではないか。外来から始まり、入院し、入院中、退院時、在宅療養中、看取り、と、一本の柱を中心にその流れがわかる様な仕組み作りをしていくと良いと思う。

岩間委員：豊川市では、昨年在宅医療・介護多職種連携の手引き」を作成しており、今年度の更新時には、新たな仕組みを多職種から情報を持ち込んでもらっている。これを見れば誰でも豊川市の仕組みが分かるというものにして、皆に日常的に活用してもらおうのが課題である。

現在、手引きの最初のページは、入退院時の多職種連携のルール内容から始まっており、次に在宅療養における多職種連携のルールが続いている。

この手引きを活用して、新たな仕組みは、どのような順番でまとめていけばいいのか、検討が必要となるので、その際、わかりやすい流れを意識しながら更新していくように、地域包括ケア推進係と話し合っていこうと思う。

2. その他

(1) 平成30年度第1回豊川市地域医療連携協議会開催について

岩間委員：会議次第を資料配付している。資料を参照。

(2) 市民病院からの確認事項

内藤委員：入院時「居宅サービス週間予定表」を頂きたいと、市民病院からはケアマネジャーに依頼をしているが、現実には1表から3表までを送って頂いている状況となっている。他の病院では、入院時情報提供書はどのようなルールになっているのかを知りたい。

福尾委員：入院時は患者家族と面談を行っているので、直接情報を聴取して情報を得る形となっている。ケアマネジャーから情報提供書を頂いていない。

—他の病院も同様に、入院時情報提供書を送ってもらうルールにはなっていない—

内藤委員：確認ができたので、市民病院としては、これまでどおりの対応をしていく。

以上